

[抄録様式]

公益財団法人 8020 推進財団 令和元年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録
1. 事業名： 病院入院患者を対象とする口腔ケア活動
2. 申請者名： 公益社団法人高松市歯科医師会 会長 梅村 謙二
3. 実施組織： 公益社団法人高松市歯科医師会 地域保健Ⅲ部（高齢者、在宅等担当） 医療法人雙和会 クワヤ病院
4. 事業の概要： 高松市内の病院・クワヤ病院において、同病院の入院患者を対象に、歯科健診及び口腔ケアを行った。この事業を通じて、入院患者にご自身の口腔内の状況を知ってもらうとともに、その情報をご家族・病院関係者とも共有することで、口腔内の健康の保持に役立てるため、従事した歯科医師及び歯科衛生士は、指導・助言を行った。また、本年度は、当会の下村隼人先生を講師とする「口腔リハを解剖学的、生理学的視点から考える」と題する講習会及び全国訪問歯科研究会（加藤塾）主宰 加藤武彦先生をお招きし、「食べる喜びを支える歯科医療」についての講演会を開催した。さらに、次年度への本事業継続のため、今回の取組の課題や見直しが必要な事項について、会長など役員を含めた検討会を実施した。当初予定していた報告会は、新年度に実施予定。
5. 事業の内容 本事業の目的は、入院中から退院後も含めて継続した口腔ケアが提供できるシステムを構築することにある。そのためには、病棟での口腔ケアに基づく口腔管理、地域での病診連携による全身管理が必要であり、歯科と医科の協働体制が不可欠であると考えている。協力をいただいた病院は、病床数73床を有し、院長をはじめ病院関係者の口腔ケアへの関心は高く、今回の当会の事業に対して理解をいただき、非常に協力的であったので、準備期間が短期間にもかかわらず、円滑な事業実施が可能となった。 第1回目の口腔ケアは、令和2年3月4日に入院患者14名に対し、歯科医師1名、歯科衛生士3名のチームで行われた。また、第2回は令和2年3月11日に入院患者15名に対し、歯科医師2名、歯科衛生士3名のチームで行われた。
6. 実施後の評価（今後の課題）： 今回の場合、意思疎通ができない患者様が29名中16名もいたため、指示動作不可能な方が多く、看護師や介護士による標準的な口腔ケアの遂行は困難と思われ、歯科医師や歯科衛生士による専門的な口腔ケアの継続を、どのように図っていくか、といった課題も見えてきた。 また、口腔ケアの必要性を感じている病院看護師がいるにもかかわらず、口腔ケアの実施時間、実施回数が限られていることや、ケアの方法など情報が少ないことが分かった。このため、看護師に対して、歯科からの情報発信が必要であることが示唆された。 さらに、今回のケアによって、入院患者の口腔乾燥の実態を知る手がかりを得るとともに、口腔乾燥への対応策にもその必要性が示唆された。 今後とも、多職種との連携や患者様とのコミュニケーションを取りながら、機能的口腔ケアを実施し、入院患者の栄養改善、肺炎予防等に貢献したいと考えている。